

## 教育・公益事業委員会，人材育成・男女共同参画委員会共同企画シンポジウム 若手研究者のキャリアデザイン - 就職前に考えよう - 報告

慶応大学 石樽 崇明  
東京大学 田中 倫子  
東芝 渡辺 美代子

2009年の秋季学術講演会にて、シンポジウム「若手研究者のキャリアデザイン - 就職前に考えよう -」を、学生及びポスドクを対象として9月9日（水）午後開催し、約140名に参加いただいた。

2007年後半より全世界が陥った「100年に1度」と言われる不況の影響から、研究開発職のみならず、多くの職種で雇用機会の減少が見られ、学生及びポスドクの就職も大変厳しい状況にある。このような状況の中、若手研究者、学生会員の皆さんのキャリアデザインをサポートする目的で、教育・公益事業委員会が、2009年春の学術講演会にてスクール「会社に入る前に身につけておいてほしいこと」を、また人材育成・男女共同参画委員会が、2008年秋の学術講演会にて、シンポジウム「学会における若手人材育成」を開催して来た。これらの企画を通して得られた知見をもとに、今回は、教育・公益事業委員会と人材育成・男女共同参画委員会の共催にて、大学院生を含む学生とポスドクの皆さんのキャリアデザインを考える場を企画した。セッション-1ではキャリアデザインに役立つと考えられる講演を、セッション-2では新たな試みとして、講演者を中心に、参加者全員が小テーマに別れ、グループ討議で様々な問題について議論を実施した。

まず冒頭、石原宏会長が挨拶、続いて、教育・公益事業委員会の樋田博文委員長より挨拶があった。

セッション1では、内閣府の有松正洋氏より、理工系人材の就職状況とキャリアパスについて基調講演をいただいた。第3期科学技術基本計画を基本に、これまでの取組みと現状をデータに基づきご説明いただいた。

東大の加藤雄一郎氏は、自らの経験をもと米国の学位とその価値、大学院とポスドク生活をご説明、留学する場合に何が必要かを具体的にご説明いただいた。

産総研の金沢康夫氏からは、産総研が昨年からはポスドク人材育成事業として取り組んでいるイノベーションスクールについて、既に3回開始した状況及びその問題点やポスドクへの提言として幅広く柔軟に対応することの必要性を述べられた。

地元富山のベンチャー企業生活ネット研の羽根由氏は、地域が求めるキャリアデザインとして地域に積極的に関わる人、肉声で交流し五感で気づく人が求められ、1円にうるさい交渉力、肩書きに動じない行動力、ネットワーク型の企画力が企業の求める想像活動には必要であると訴えた。

浜松ホトニクスの中野原氏は、技術を基本とした企業で求める学生像についてご説明、個人のやる気、考え、アイデアを尊重する環境の中、大きなやりがいとともに責任をもって一人ひとりがスペシャリストになることが必要であると説明された。

講演の最後は、ソニーの倉本大氏からグローバル企業が求める学生像についてお話をいただき、自分のしたいこと、できること、すべきことの間関係をよく考え、それぞれを広げて3つの重なりを高めるよう日々アクティブに行動する人が求められていると述べられた。

セッション2では、6つのグループに分かれ、講演者と参加者が一緒になってグループ討議を行った。グループ討議には、石原会長、両委員会の委員長と委員も参加し、学生やポスドクの質問や疑問を中心に、自由な意見交換が行われた。学生及びポスドクからは、研究を続けたいという希望が多く、ポスドクの数が多い現状及び将来に不安を感じるという声が多かった。これに対しては、インターンシップや学会での人的コネクションも活用して積極的に就職先を探すことと同時に、自分の本当にしたいことをじっくり考えることも重要、また失敗は皆経験するので失敗を恐れずに若い時からチャレンジしてほしい

いというご意見があった。また、日本の国際競争力についても話題になり、今後は日本のトップの大学は厳しくして、アメリカ同様の教育をした方が良いのではないか、能力の高い人は海外に送り出すほうが良いが能力よりもモチベーションの低い事が問題、今後学生のモチベーションを高める教育が必要であろう、アメリカに留学しても将来日本に帰って貢献してくれる事が大切、そのための受け入れ体制の整備も必要であろう、という議論もなされた。討議終了後には、それぞれのグループ代表者がグループ内で議論しあった内容を発表した。

最後に、人材育成・男女共同参画委員会委員長の小館香椎子氏より挨拶があり、今後学会をはじめそれぞれの機関がそれぞれの課題を明確にして人材育成に取り組むことが重要であるとのメッセージで締め括られた。

シンポジウム終了後に行ったアンケート調査では、参加者のうち 20 代の修士課程学生からの回答が多数得られ、特に「企業の研究者と話すことができてよかった」との意見が寄せられた。応用物理学会学生会員においても、「企業へのキャリアパス」が非常に重要視されていることが明らかになった。



グループ討議の様子